

## 阿波市への移住についての 窓口・関連情報

### 阿波市移住交流支援センター



阿波市移住交流支援センターでは、  
移住相談の専任スタッフが、  
移住に関する総合的なコーディネートをおこなっています。



[TEL & FAX] 0883-35-4211  
[E-Mail] info@awa-kankou.jp  
阿波市阿波町東原173  
一般社団法人 阿波市観光協会内

#### ・移住希望者ヒアリング、個別相談

相談スタッフには県外からの移住者が多く、丁寧かつ親身に対応しています。

#### ・住宅、就労、就農コーディネート

阿波市内の空き家情報を提供する「空き家バンク」を運用し、移住希望者のニーズに応じた空き家のご紹介をしています。また、移住にあたって利用できる制度のご紹介、就労や就農に向けた情報提供、移住者の事業立ち上げ支援を行っています。

#### ・暮らしの相談

お子さんの幼稚園や学校のこと、買い物や交通、地域の様子など、くらしの様々な課題について相談を受け情報提供しています。また、それぞれの場面で、阿波市の市民サポーターによるフォローもあります。

#### ・移住者交流イベントの開催

阿波市への移住者や移住希望者の交流会を定期的で開催し、地域のひととの交流を深め、移住に関する不安や、移住後の孤立を防ぐために繋がりづくりをしています。

#### ・移住おためし物件「土成の家」

阿波市土成町、三木武夫・元首相の生家敷地内にある、移住おためし用宿泊施設。移住希望者に阿波市での暮らしや環境を体験し、阿波市への移住について検討していただけるよう運用しています。利用期間は1カ月までのショートステイ用ですが、移住決定となったあとも物件探しや職探し、引っ越し時などに複数回の利用が可能です。



### 関連ウェブサイト

- ・阿波市移住交流支援センターホームページ  
<https://www.city.awa.lg.jp/docs/201206280014/> 
- ・阿波市移住交流支援センター[Facebookページ]  
<https://www.facebook.com/awashijyuu/> 
- ・全国移住ナビ[徳島県阿波市]  
<https://www.iju-navi.soumu.go.jp/onl/tokushima/awa/>
- ・阿波市観光協会ホームページ  
<http://www.awa-kankou.jp/>



徳島県 阿波市

2017年3月発行

徳島県  
阿波市



# しあわせ 暮らし



あんしん、あんぜん  
阿波市  
あわ





## “安心・安全”だから、 しあわせな暮らし

みなさんにとって、“安心・安全”な暮らしって、どのようなものでしょう？  
たとえば、こんな感じでしょうか。

### 「防災」

シェルターを備えた強固な建物の中で生活する。これは最強です。

### 「子育て」

家の中で、親の目が届くところだけで育てる。とても安全です。

### 「食」

植物工場で育てた野菜や、宅配サービスの食材のみを利用する。  
かなり安心です。

これだけ揃えるとさすがに、日々の生活に不安など一切なく、安心・安全な暮らしができそうです。  
でも、それらの生活って、はたして幸せでしょうか？



「“安心・安全”だけど、しあわせじゃない生活」と「“安心・安全”だから、しあわせな生活」。

ぜんぜん違いますよね。

阿波市には、“安心・安全”だから、しあわせな生活を送っている人たちがたくさんいます。

この冊子では、そんな阿波市の日常にあふれる、“安心・安全”への取り組みや、環境についてご紹介します。  
そう、安心・安全のまち、阿波市にはきっとみなさんが求めてやまない幸せな暮らしがあるはずです。

ほら、「しあわせ」という文字をよく見てください。

しあわせの中心には、“あわ”があるんです！

これはもう間違いのないですね。どうぞ、ご覧ください！

# 阿波市って こんなところ



阿波市は、徳島県中央北部の吉野川北岸に位置し、北は香川県に隣接しています。阿讃山脈と吉野川に囲まれた土地には、水と緑の豊かな自然が息づき、その恵まれた土壌を活かした高品質な農産物の産地となっています。また、都市部にはない、地域の人々とのほどよい距離感の関係性があります。

## 実はすごい！ 安心・安全への 取り組み&環境

そんな阿波市では、生活をしている人たちの幸せ満足度を高めるために、安心・安全への取り組みと環境づくりに力を入れています。特に、防災・子育て・食の3点においては市を挙げて取り組み、誇れるべき内容が整っています。しかし、いずれも派手さはなく、もしかしたら、やや地味な強みかもしれません。

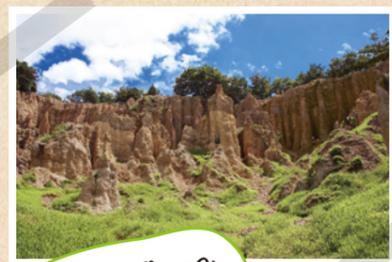
日本一の川中島  
善入寺島



広々とした  
農地が  
あるよ！

日当たり  
良好

## 阿波市ならではの伝統と文化もいっぱい！



“世界三大奇蹟”の一つ、  
「阿波の土窟」。



「阿波オープンカーテン」をはじめ、  
花と緑に囲まれた  
まちの風景は鮮やか！



阿波市には  
「四国八十八ヶ所霊場」のうち、  
四ヶ寺があるよ。



皆でおいおい食べる、  
阿波市の郷土料理  
「たらいうどん」

そこで今回は、阿波市の強みを  
多くの方に知ってもらうために、  
**実はすごい！  
阿波市の3つの  
“安心・安全”**  
として、ご紹介しちゃいます！



- ・災害に強いまちづくりを推進
- ・市民レベルでの高い防災意識
- ・地理的 & 地域的な防災メリット

## 防災

Disaster prevention

## Safe & Secure 安心・安全 阿波市

## 子育て

Child care

## 食

Food culture



- ・子育てに最適な大自然
- ・地域の温かな見守り環境
- ・子育ての支援 & サポートが充実



- ・高い食料自給率
- ・多様な食材が豊富
- ・“食育”がとっても盛ん

# 防災

Disaster prevention



実はすごい！阿波市の3つの『安心・安全』

1 防災

## “もしも…”に備え、今、できることを!

消防団や自主防災組織の育成・強化、木造住宅の耐震診断や改修事業の補助など、災害に備えた対策を進めています。いざというときの避難経路や避難場所の整備も行い、市民の自助・共助の意識向上を図っています。

### 災害に強いまちづくり

たとえばこんなこと  
やっています。

### 楽しくてためになる 防災フェスタ

イベントを通じて災害に対する心構えや、地域や家庭の防災対策について正しい知識の普及を図り、防災意識の向上を図っています。



### がんばってます! 消防団

阿波市消防団は、地域に根差した幅広い活動を行う「市内30区域の分団」に加え、様々な救助用資機材を駆使する「救援機動隊」、きめ細やかな支援で活躍する「女性消防班」を組織し、地域防災の要として活動しています。また、土砂崩れや浸水などの自然災害に対し、



様々な資格や経験を活かし対応する「ハイパー消防団員」も所属しています。

### 頼れる防災監

内閣府が創設した「地域防災マネージャー制度」を徳島で初めて活用! 防災のスペシャリストとして元自衛官を防災監に任用し、防災計画の立案や防災講習を実施しています。

## 災害時の 頼もしい拠点



### 交流防災拠点施設 アエルワ

地域および市民の文化・交流活動を支援するとともに、災害時における応急対策の活動拠点として設置された施設です。

### 市庁舎

災害時の拠点施設としての役割を十分に果たすため、免震構造の採用をはじめ、自家発電設備を設けるなど、機動力が発揮できる災害に強い設計となっています。



### こんな部分でも安心! 阿波市の防災メリット

- ・海岸部から離れているため、津波の心配がほぼない。
- ・高層ビルやマンションなどの建造物がないので、二次災害が少ない。
- ・交通機関のマヒによる心配が少ない。
- ・避難場所への経路が明確、かつ移動がスムーズ。
- ・食材、水などの資源が豊富。
- ・自主防災組織を中心に、自助・共助の意識が高い。

### 1 どうして阿波市へ? 移住者インタビュー

## 人と人のふれあいが多く、もしもの時も安心

### おこのぎ 小此木 美恵さん

すでに移住している知人の紹介で、数日間阿波市にて移住体験をしました。実際に子どもたちと川遊びを楽しみ、溢れる自然の中でのびのびと過ごし、空の青さに驚きました。滞在中、スーパーに買い物に出かけると、地元の方が子どもに「そんなに走ると危ないよ」とか声をかけてくれたりして、人とのふれあいが多くて親しみやすい地域だなと感じました。また、近所の方が親身になって、暮らしの情報や、災害時の避難についてなど防災に関することも詳しく教えてくれました。

阿波市は地形的に海から離れていることや、比較的液状化しにくい地質であるという点も大きな安心材料でした。東日本大震災時には、食べ物や飲み物などの物資がなくなるといった怖さも体験しましたので、阿波市の食料自給率の高さも決め手となりました。今は休日の楽しみとして、家族が食べられる野菜を家庭菜園で育てています。



移住前の居住地: 福島県  
福島県出身。東日本大震災を機に移住を考える。2011年に知人の紹介により家族4人で阿波市へ移住。現在は家庭菜園を趣味に、食料自給率も高めている。



自然豊かな土地と、地域の温かな見守り環境

## 子育てにうれしいこと たくさん

山や川、田んぼなど、豊かで広々とした自然環境のなかで、のびのびと、おおらかに子育てできるのが阿波市の強み。サポート体制も充実し、地域全体で子育てできる環境を整えています。



たとえばこんなサポートがあります。

### 充実の子育て支援・サポート

#### スマイルファミリー 不妊治療応援事業

「徳島県こうのとりの援事業」の交付決定に上乗せする形で特定不妊治療に要する費用の一部助成があります。

#### 子育て応援ヘルパー 派遣事業

妊娠中から産後1年以内であれば、家事援助や育児援助を受けることができます。

#### 出産祝金

1子目3万円、2子目5万円、3子目10万円、4子目以降20万円の祝金を支給します。

#### あわっ子はぐくみ医療費 助成事業

中学3年生まで保険診療の自己負担分(高額療養費および入院時食事療養費自己負担額は除く)を助成します。

#### ひとり親家庭等 児童入学祝い金

ひとり親家庭の子どもに小学校および中学校入学時に祝金を支給します。

#### ファミリー・サポート・センター

(公財)徳島県勤労者福祉ネットワークに委託し、子どもの預かりなどをしてもらう相互援助活動を行っています。

#### 病児・病後児保育

満1歳～小学校6年生までの子どもが病気などにより、集団保育ができない場合、子供の一時預かりを行います。

【利用日時】月曜から金曜(祝日を除く)8:30～17:30

【利用料】日額2,000円

【実施施設】病児・病後児保育ルーム つかきっず(『おつか内科』内)

#### 保育所・幼稚園・認定こども園の 利用者負担額の軽減

- (1) 兄弟姉妹の保育所および幼稚園等の同時入所の保育料軽減
- (2) 多子世帯児童の保育料免除(18歳未満の児童が3人以上いる世帯で、阿波市から支給認定を受けている第3子以降の児童が入所・入園した場合、保育料は無料)

- (3) ひとり親世帯、在宅障がい児(者)のいる世帯等であって、市町村民税所得割非課税世帯及び所得割額77,101円未満世帯の保育料の減額又免除
- (4) 保育料の世帯階層区分別基準額の低設定

#### 学校教育環境の整備

学校教育施設のバリアフリーや教室へのエアコン設置を進めています。

#### 子育て支援センター (地域子育て支援拠点事業)

主に3歳までの子どもを対象とした育児相談、交流の場の提供を行っています。

#### 【施設名称】

なかよしルーム(一条認定こども園)  
わんぱく広場(土成中央認定こども園)  
にこにこルーム(八幡認定こども園)  
さくらんぼルーム(旧日開谷幼稚園)

のびのび  
できるよ♪

公園も充実!



#### 土柱そよ風広場

木材の良さと、森林への親しみを持ってもらえるように間伐材を利用した大型木製遊具があり、雄大な芝生広場の中に20種類の複合遊具を備えた憩いと交流の場所です。



#### 土成緑の丘スポーツ公園

吉野川中流域を一望できる高台にあるスポーツと憩いの場です。野球、テニス、パターゴルフなど多彩なゲームが楽しめるほか、子どもの遊具も完備されています。

### 2 どうして阿波市へ? 移住者インタビュー

### 住んでみてわかった、土地の人々のあたたかさ



移住前の居住地：東京都  
北海道出身。東日本大震災を機に、安心して子育てができる生活環境を強く意識するようになり、2人の娘とともに2013年3月に阿波市へ移住。

#### 大塚 亮子さん

震災があった時は私は育休中でしたが、都会では混乱と不安の中で主人がすぐに帰宅することができなかったこと、放射能被害で子どもたちの健康が脅かされる危険性があることなどから、移住を決意しました。移住先の条件として譲れなかったのは、安全なことはもちろんですが、主人が仕事の都合で東京を離れられず、私も勤めに出ることから、子どもたちが保育所や学童保育に入りやすいことも生活するうえで必須でした。

いろいろと調べているうちに、阿波市なら子育て支援・サポート制度も充実していることがわかり、見知らぬ土地でしたが「ここなら安心して子育てができる」と感じて移住を決めたんです。実際に移り住んでからは、地元の方々や職場のみんなが私たち家族をととても温かく迎えてくださり、不便や戸惑いを感じることなく生活できているのは、とてもありがたいと感じています。大変なことを強いて挙げるなら、東京でペーパードライバーだった私が、職場まで毎日運転しなければいけないことぐらいですね(笑)。

# 食

Food culture



地産地消

## 新鮮野菜の宝庫!

太陽がさんさんと降り注ぐ阿波市は、豊かな土壌を活かした高品質な農畜産物を供給する県下有数の農業地帯です。食料自給率(生産額ベース 徳島県平成24年データ)は驚異の136%を誇り、子どもたちの学校給食も地産地消で提供しています。



## 農業王国だからこそ、の強さ

### 阿波ベジ

阿波市で収穫された野菜を“阿波ベジ”と称し、その魅力を広めるPRに力を入れています。近年、徳島県内はもとより、京阪神などの都市部においても、阿波ベジが重宝されるようになってきています。阿波市の農業の魅力に惹かれて移住を決める方も多く、新規就農者のサポートにも力を入れています。

### 給食

子どもたちには地元の食材を活かした、栄養バランスが高く、かつ新鮮で安心・安全な給食を提供しています。市内全ての小・中学校・幼稚園や認定こども園(4・5歳児)に通う児童生徒や園児に対して、統一した献立で学校給食を実施しています。



地元・阿波市産の食材が盛りだくさん!  
一年を通じて、旬の食材が揃います。

しかもリーズナブル!

## 産直市



**JA夢市場**  
阿波市市場町大野島字野神77-1  
TEL.0883-36-5332



**JAグリーンどなりマルシェ**  
阿波市土成町土成字寒方75-1  
TEL.088-637-8228



**JA阿波町 土柱の里**  
阿波市阿波町南整理53-4  
TEL.0883-35-7522

## 食育について

野菜を語る人がたくさん

### 野菜ソムリエの活躍

阿波市には、野菜ソムリエ、ジュニア野菜ソムリエ合わせて45人が活動中(平成28年12月時点)。阿波市の自慢である豊富な野菜や果物の魅力を多くの人に伝えるため、日々活躍しています。



### キッズ野菜ソムリエがいっぱい

小さい頃から農産物に親しんでもらえるよう、キッズ野菜ソムリエの育成にも力を注いでいます。野菜や果物のおいしさや魅力を知ってもらうだけでなく、野菜の植え付けや収穫なども体験。実際に土にふれることを通じて、農業や食に関わる仕事に興味を持ってもらう機会を提供しています。自然の恵みを体感してもらえるのも、田舎ならではのです。



3 どうして阿波市へ? 移住者インタビュー

## この土地だからできる、有機農業への挑戦

### 豊崎 達朗さん

私が移住したのは、「農業を仕事にしたい」という気持ちがあったからです。移住先を阿波市に決める大きな決め手になったのは、以前、新規就農する移住者の支援をしていたNPO法人「めだかの学校」でした。就農前に1年間農家さんのもとで農業のノウハウを学ぶことができたのは、素人だった私にはとてもありがたかったです。そこで学んだ知識や、講演で知った「プロ理論」という考え方をもち、今は有機農業の作物を生産しています。

最初は単に農業をやりながら暮らしていくことしか考えていませんでしたが、農業に慣れてくるに従って、他の若い農家さんと一緒に徳島県の認証ブランドの白ナス「美ナス」を生産して阿波市を盛り上げたり、農業で阿波市をPRすることなども考えるようになりました。自分が生産者になったことで見えるようになった、消費者の持つ「食の安全性」への期待にも応えられるよう、この土地で美味しく安全な野菜作りを目指していきたいと思っています。

移住前の居住地: 徳島市  
徳島市出身。農業法人で勤務していたが、自らも農業に挑戦したいと考えて2010年頃家族とともに阿波市に移住。現在は年間10品目ほどの野菜を栽培する。

実はすごい! 阿波市の3つの『安心・安全』

3 食

# 阿波市の暮らしがよくなりましたか?

市民のみなさんに聞きました!

野菜の味が濃く、美味しい  
住んでいる人たちも、  
情熱あふれる人が多いところ  
大塚 靖子さん(野菜ソムリエ)



地域住民のコミュニティが  
しっかりしていて、  
近所の助け合い文化がある!  
松野 達也さん(パソコン専門店経営)

子育て支援センターなど、  
子育ての相談窓口が多い  
ママ友のつながりができ、  
外に出る機会が多くなり  
楽しかった  
河野 千晃さん(販売員)



静かな環境と、  
おいしい野菜や果物が  
いっぱい!  
武澤 豪さん(農業経営)

自然や食の豊かさのほか、  
保育料や子どもの医療費なども安く、  
子育てがしやすい環境  
坂本 紗智子さん(小学校教員)



住まいの耐震改修工事  
力を入れ、安心して住める  
まちづくりを推進している  
増田 健人さん(建設業)



水や空気がきれいで、  
自然環境が良い  
比較的温暖な気候なので  
冬でも過ごしやすい  
近藤 達也さん・百合枝さん  
(喫茶店経営)

旬の味や地元の味を  
大切に材料で、子どもたちが  
笑顔になってくれるような  
いろんな料理を作れるところ  
前田 美智子さん(鍼灸師)



地元のおまわりさんが  
高齢者の家を細やかに  
見回ってくれるなど、  
地域の人のつながりを  
大切にしている見守り環境  
松尾 啓三さん(ギョウザ店経営)

人も空気も穏やかで、  
静かにゆったりと  
暮らせるところ  
上藤 汐莉さん(学童保育指導員)



星空と空気がキレイな  
阿波市がお気に入り  
山口 えこさん(薬草師)



出産祝いや医療費の助成ほか、  
子どもを持つ家庭をサポートしてくれる制度が  
充実していて、子育てにやさしいところ  
川人 信之さん(ダンスインストラクター)



住んで  
みてよ!

野菜がおいしいまちで、  
たくさんの野菜ソムリエが  
活躍している  
篠原 えり子さん(野菜ソムリエ)

野菜や食料を物々交換したり、  
地域や近所の人たちと  
気軽に交流できる、  
ゆるやかなコミュニティ  
笠井 美紀さん  
(ベーカリー店経営)

農業に適した土地で、  
おいしく安全な野菜が  
たくさんある  
長町 将治さん(農業経営)



子育てするパパやママに  
優しい阿波市の  
これからもそのお手伝いが  
できたら幸せ  
安田 佳子さん(明るい主婦)



食料自給率が高い地域なので、  
非常時でも安心できる  
有吉 裕之さん(カレー店経営)

事業の後押しをしてくれたり、  
生活面でもサポートしてくれたり、  
といった地域の関係性が  
しっかりしている  
岡本 智江さん(観光業)

山奥のような田舎でなく、  
スーパーやコンビニもあって、  
ほどよい便利さがある  
バレンタイン プレイソンさん  
(フランス出身、豆腐職人見習い)



## 徳島県阿波市へのアクセス



みなさん、いかがでしたか？

阿波市には都市部と同じような便利さはありません。

でも、“安心・安全”な快適さと、幸せにあふれた日々の暮らしがあります。

こちらで紹介したのは、阿波市の日常の、ほんの一部にすぎません。

このなかに、ひとつでもみなさんの心に響いたものがあれば、

裏面の移住相談窓口まで、どうぞお気軽にお問い合わせ・ご相談ください。

### 交通アクセス

#### ●東京から

飛行機で約1時間20分(『徳島阿波おどり空港』or『高松空港[香川県]』まで)  
+車で約55分(『徳島阿波おどり空港』or『高松空港』から阿波市まで)

#### ●大阪から

バス or 車で約2時間30分

#### ●徳島市(中心部)から

車で約50分



### 阿波市DATA

■ 可住地面積 **89.78**km<sup>2</sup>

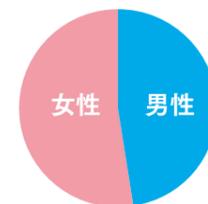
■ 可住地面積割合 **47.0%**

徳島県の可住地面積割合の平均は、24.6%。  
阿波市は徳島県内でも平野部の多い地域といえます。

■ 総人口 **38,692**人  
男性:18,457人、女性:20,235人

■ 世帯数 **15,203**世帯

■ 総面積 **191.11**km<sup>2</sup>



※住民基本台帳より  
(平成28年12月31日現在)